新しき愛車

赤谷慶子

運轉免許證の返納時期を何時にせむやは同年代の仲間内にて話題に上ること多き今日このごろなり。ゴルフに行く爲等、車なくば吾の行動いちじるしく制限せらる。八十五歳までが限りかと思ひて、逆算すれば愛車の乗換へは今年のほかになしと考へたり。しからずんば今の愛車を十年以上使ふ事になり、安全性等確保のため買替ふる事に定めたり。コロナ以降半導體不足等と、圓に対するユーロの強さもあり、乗用車の値段高し。中古車市場も活況にて、値段も上がれり。今の愛車を賣りて、新しく買はばそれなりにこれまでと大差無き價格となりたり。

自動車會社の年ごろの擔當者なりし人より卯月にあつらへば早秋に納車可能と聞き及び發注せり。お盆休み前に新しき愛車は納車となりたり。確かに安全性の高き機能装備せられおり、舵取りの容易さはこよなし。難點一つあり、すなはち車體の一回り大なることなり。これまで駐車せるよろづなる店の駐車場所に入らぬ可能性なしとせず。

新しき機能管理せる所謂「畫面」の操りのならふまでゆゆしけれど、携帯電話と同様のSIRIしつらへられたれば、車に聲かくれば自由に操る事可能なり。便なりや否やは今後知ることにならむ。

仰天せることあり。運轉中「疲れたり」と獨り言のごとくボヤけば、たちまちに運轉席の按摩椅子と化するのことなり。丁度赤坂見附の辨慶橋あたりを虎ノ門方向に右折せむとせる時に作動せり。運轉中にて、いかにして止むるかも分からず、「按摩止めてくれや」と大聲發すれば、「かしこまりたり。休養作動を中止つかまつる」と發聲あり按摩は止まりき。車に乗りて、かく驚きしためしはなく、おのれは腰を抜かしたり。最近の車はロボットに進化せりや、空恐ろしきたり。

（令和六年八月二十七日受附）